

2013.09

丸和運輸機関「ロジスティクス大賞“物流革新賞”」受賞!! ～当社独自の「返品物流モデルの構築」が評価され大賞を受賞～

社会問題化する“返品”にフォーカスし、弊社が独自に開発した「返品物流に関する3PLビジネスモデル」の実績が評価され、日本ロジスティクスシステム協会の「ロジスティクス大賞 物流革新賞」を受賞いたしましたのでお知らせいたします。

2013年度ロジスティクス大賞 物流革新賞

<受賞企業> 株式会社丸和運輸機関

<受賞テーマ> 「3PL企業によるドラッグストアのサプライチェーンにおける返品業務効率化」

<受賞事由>

社会的、経済的に不利益を生みだしている返品物流に敢えて着眼し、サプライチェーン全体で集約化、さらに小売間での共同化を推進することにより、それらの返品業務を請け負う返品センター運営という新たなビジネスモデルを創造し、構築した。小売、卸売業内に存在する様々なルールの本質化や、信頼関係の構築等、組織の壁を打ち破る努力がなされた結果、返品業務の効率化だけでなく、顧客の経営資源を販売業務に集中させることに貢献し、社会的経済的にも不利益の源泉となっている返品そのものを削減する効果を生み出した点が評価された。

※ 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会様ホームページより抜粋

◆ 取り組みを行うに至った背景と目的

(1) 背景

- ①お客様であるドラッグストアの物流センターにおいて、取扱物量の増加と返品商品が増加し、返品置き場のスペースが広がり、通常の出荷物流に支障が開始した。
- ②卸側の返品処理業務にも多大な時間とコストが発生していた。
- ③返品業務自体は、販売物流と異なり、全く効率化されていない分野であった。

(2) 目的

- ①お客様であるドラッグストアを取り巻くサプライチェーン全体に着目し、返品業務の効率化に取り組み、各プレイヤー1社では創出できない新しい価値を提供する。
- ②小売業であるドラッグストア、卸売業の様々な要望に対応し、ドラッグストア業界の返品物流モデルを構築すること。

◆ 取り組みの概要

- (1) 関東では、通常の販売物流と分けて返品業務用にセンターを設けた。3つのステップに分けて、段階的にお客様の要望に対応し、小売店舗及び卸の作業負担を減らし、返品業務の効率化を図った。
- (2) 中四国では、汎用センターの一部のスペースを利用して、返品作業を行い、小売店舗の負担を大幅に削減し、返品業務の効率化に取り組んだ。
- (3) 上記取り組みから、ドラッグストア業界における返品業務の標準モデル構築を図った。

◆ 取り組みによる成果

(1) 小売業であるドラッグストアの効果

当初の目標を達成し、関東では店舗の返品作業時間が30%削減され、中四国では約70%削減された。また、「売り切る努力」の意識を持つようになり、販売に専念できた。

(2) 卸売業の効果

物流センターの返品集品作業がなくなり、一部の卸売業では、メーカー別仕分けを当社に委託することでその作業が削減された。

(3) 製造業の効果

返品受入れが店舗毎であった企業においては、物量がまとまり一括で入荷することで、受入れ作業が軽減された。

(4) 当社3PL運営の物流センター

- ① X 物流センター：返品置き場のスペースが1/3に削減されました。
- ② Y 物流センター：返品置き場のスペースが1/3以下に削減され、作業時間も大幅に削減されました。

- ◆ 神奈川県相模原市の大型新物流センターで更に高度化した「返品物流」を導入いたします。また、今後、「返品物流」の仕組みを全国的に展開させ、サプライチェーン全体における静脈物流の効率化を図り、グリーンロジスティクスを推進いたします。